

側溝部工法

高耐候&高強度ウレタンウレアコーティング材

オートンウレアックスHG

GU04工法標準施工仕様書

2016年8月版



オート化学工業株式会社

URL <http://www.autochem.co.jp>

本 社	〒110-0005	東京都台東区上野5-8-5 CP10ビル5階
		TEL : 03-5812-7310 FAX : 03-5812-7950
大阪支店	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2-18-23
		TEL : 06-6821-8011 FAX : 06-6821-8010

I. 適用範囲

本施工仕様書は、一戸建ておよび集合住宅(マンションを含む)の改修用途に限る。

II. 施工および管理

本工事の施工および管理にあたっては、本施工仕様書に記載された事項に基づいて、正確かつ丁寧な施工を行い、十分な技術管理と作業管理を行うものとする。

III. 協議

本施工仕様書に記載がない事項、および変更、訂正などが生じた場合は、その都度、関係責任者と協議の上、承認を得て施工する。

IV. 仕様

本標準施工仕様は、オートンウレックスHGによる非歩行露出工法とする。

IV-1 側溝部仕様

オートンウレックスノトップ仕様		
順序	使用材料	標準使用量
		kg表記
1	OP-30B	0.15kg/m
2	オートンウレックスHG	0.4kg/m

※側溝幅 系尺300^{mm}設定

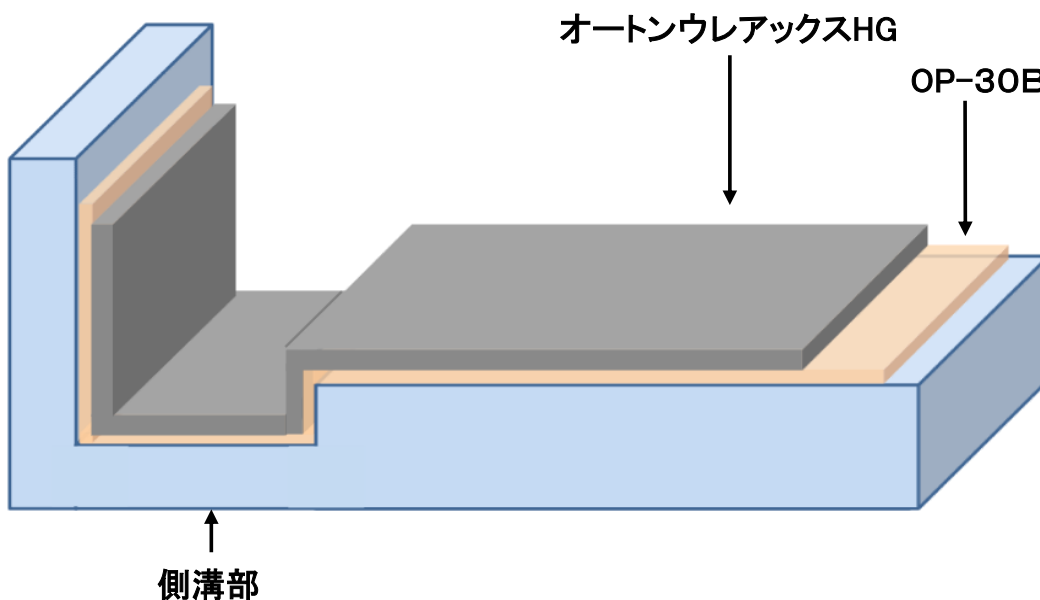
※ウレックスHGは硬化促進剤Sを添加することにより、硬化を調整して下さい。

硬化促進剤の添加量目安

	冬	春秋	夏
硬化促進剤添加量(%)	5.0	2.5	0.0
0.8kg/m ² 使用時の硬化時間(hr)	4.0	4.0	4.0

標準設計価格

工法名	設計価格 (円/m)
GU04	4,000



V. 使用材料

5-1 主要材料及び副資材一覧

商品名	寸法・規格	用途・備考
オートンウレックスHG	10kg/缶	一成分形ウレタン・ウレアコーティング材
硬化促進剤S	800g/本・6本/箱	硬化促進剤
希釈溶剤K	3.5kg/缶	希釈溶剤
OP-30B	16kg/缶	一成分形ウレタンプライマー
オートンアドハー3500	320mlカートリッジ・10本/箱	欠損部調整用(非暴露用)
オートンQィックシーラント	320mlカートリッジ・10本/箱	下地処理用(非暴露用)
オートンノンブリードQィック	320mlカートリッジ・10本/箱	下地処理用(非暴露用)
オートン超耐シーラーTF2000	320mlカートリッジ・10本/箱	端末処理用(暴露用)
オートンクリアトル α	250ml/缶・2缶/箱	洗浄溶剤

5-2 使用材料の概略

● オートンウレックスHG

一成分形ウレタン・ウレアコーティング材

● 硬化促進剤S

硬化促進剤

● 希釈溶剤K

希釈溶剤

● OP-30B

ウレタン樹脂系湿気硬化型プライマー。被着体とウレックスHGを強力に接着させる。

● オートンアドハー3500

ウレタン系パテ材。欠損部の調整に使用する。

● オートンQィックシーラント・オートンノンブリードQィック

ウレタン系速乾シーリング材。入隅部の面取り、下地および防水材の不陸調整に使用する。オートンノンブリードQィックは塗料非汚染タイプです。

● オートン超耐シーラーTF2000

高耐候性ウレタン系シーリング材。仕上げ塗料の保護を必要としない部分に使用する。

● オートンクリアトル α

非石油系溶剤・天然由来成分配合。

下地表面の汚れが酷い場合は、オートンクリアトル α により除去する。

VI. 施工前の確認

施工前に以下の事項について関係責任者と十分協議、確認する。

1. 施工時期および工期の確認

天候等にも配慮し作業、養生に十分な工期を確保する。

2. 施工範囲、施工箇所の確認

- 関係責任者の立会いのもと、既設FRP層の劣化状況、施工範囲を確認する。
- 既設層の劣化状況を確認し、大きく欠損している部分は「オートンアドハー3500」で調整し下地を作成しておく。

3. 作業環境および周辺状況の確認

- 作業場所の採光、換気が十分か確認し、改善すべき点があれば修正する。
- 作業場所および周辺部を材料の飛散等で汚さないように、養生シートなどで養生する。

4. 材料の保管

- 材料の運搬については、材料、周辺部に損傷の無いように留意し、降雨などで濡れないような場所を確保する。場合によって養生シートを敷く、覆うなどの処置をする。
- 材料は直射日光の当たる場所を避け、日陰に保管する。

VII. 施工手順

① 下地の清掃

被着面が汚れていると材料の接着力に影響する為、ゴミ、塵などを取り除き正常な被着面を確保する。

汚れが酷い場合は「オートンクリアツールα」をウエス等に浸し、汚れを擦り取る。

- ※1 オートンクリアツールαが皮膚に付着しない様にゴム手袋を装着する。万が一付着した場合は水で丁寧に洗い流してください。
- ※2 使用時に発生する揮発性成分によって目・喉を痛める恐れがあるので作業を行う時は必ずマスクや防護メガネを着用して下さい。

② 欠損部の調整

大きく欠損している箇所にプライマー「OP-30B」を塗布し、パテ埋め処理を行う。

- ※3 欠損部の調整はコーティング材塗布後の意匠性に影響します。

③ プライマー「OP-30B」塗布

ローラー、刷毛等を使い、塗り残し、ムラの無い様に塗布する。

- ※4 標準使用量 0.15kg/m

④ 下地処理（シーリング処理）

不陸箇所、入隅部にシーリング処理を行う。

- ※5 不陸調整はコーティング材塗布後の意匠性に影響し、入隅部の処理はコーティング材に対する引き裂き応力を軽減します。

⑤ 「オートンウレアックスHG」塗布

「オートンウレアックスHG」ローラー、刷毛等を使い、均一にムラ無く塗布する。

※6 標準使用量 0.4kg/m

※7 オートンウレアックスHGは硬化促進剤Sの添加により、硬化を調整して下さい。
(硬化促進剤Sの添加目安;冬 5%、春・秋 2.5%)

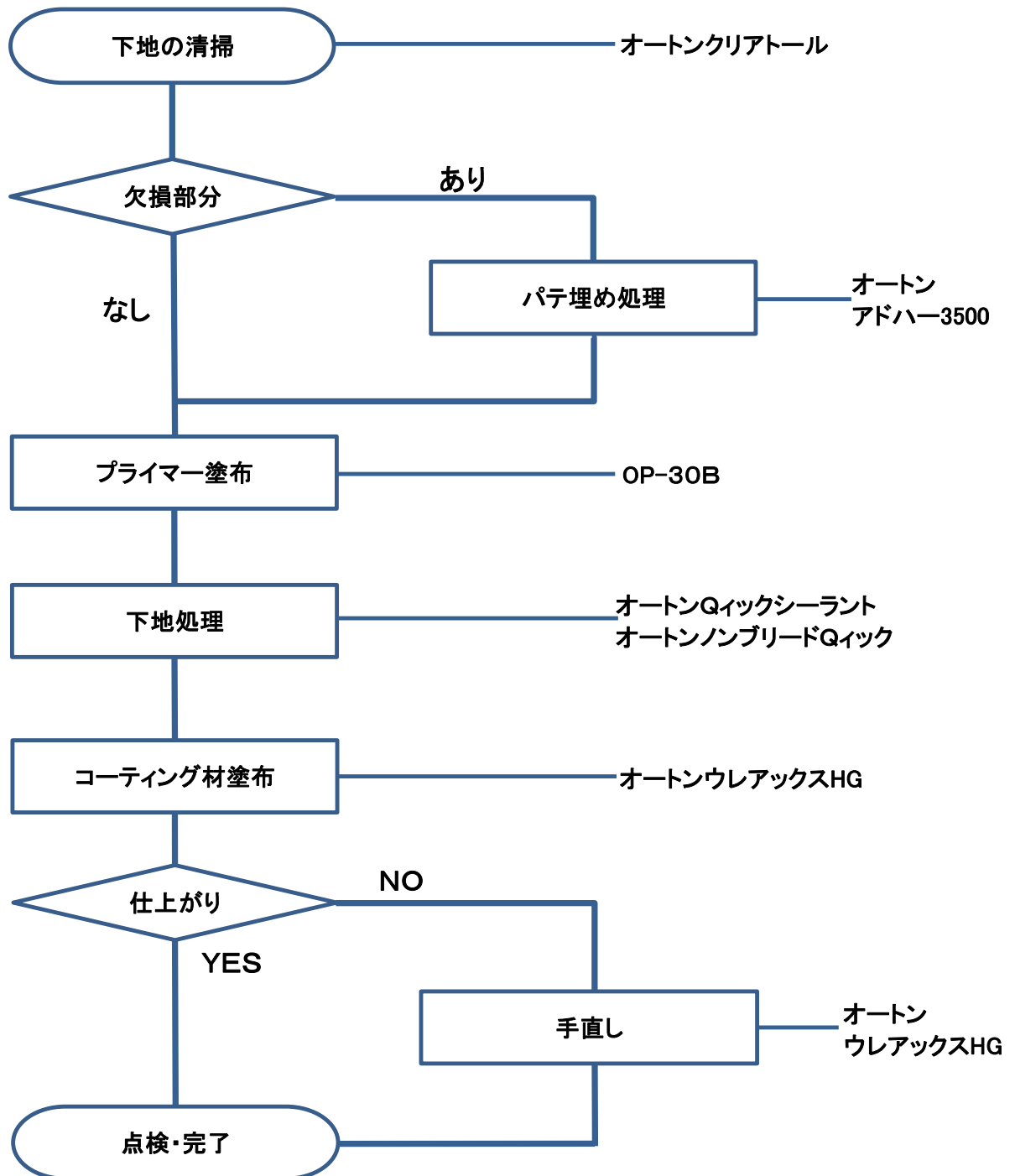
※8 オートンウレアックスHGは希釈溶剤Kにより、作業性の調整が可能です。
(希釈溶剤Kの添加目安;冬 7.5%、春・秋4%)

⑥ 点検・完了

養生等を撤去し、施工箇所を点検確認する。

VIII. フローチャート

VIII-1 側溝部仕様



Ⅸ. 塗布間隔目安

Ⅸ-1 側溝部仕様

平場仕様				
順序	工程	使用材料	標準使用量	作業間隔※
			kg表記	
1	下地清掃			
2	欠損部調整	オートンアドハー3500	適量	1時間以上
3	プライマー塗布	OP-30B	0.15kg/m	30分以上
4	下地処理	オートンQィックシーラント オートンノンブリードQィック	適量	1時間以上
5	コーティング材塗布	オートンウレアックスHG	0.4kg/m	4時間以上

※ オートンウレアックスHGは硬化促進剤SIにより、硬化を調整して下さい。

(硬化促進剤Sの添加目安;冬 5%、春・秋 2.5%)

※ オートンウレアックスHGは希釈溶剤Kにより、作業性の調整が可能です。

(希釈溶剤Kの添加目安;冬 7.5%、春・秋 4%)